



## 多摩市における テニスコートの 人工芝問題

### マイクロプラスチック 流出抑制対策が 始まっています。

ごみっと・SUNvol.37に掲載した「川のマイクロプラスチック検出1位は人工芝」。多摩市を流れる大栗川の清掃活動に取り組む市民団体からの報告で、川の水面付近の水をネットに流し込んで採取したプラスチック粒子（マイクロプラスチック）を分析した結果、人工芝が検出率第1位であることがわかりました。

多摩市ではマイクロプラスチックは環境政策課が所管する問題ですが、スポーツ振興課でもこの問題について「スポーツ用人工芝を製造している企業と連携して実証実験を行っていく」とのことで、今号はその後の多摩市の動きを報告します。

みず多摩メンバー  
よみがえれ！大栗川を楽しむ会 会員  
岸田 恵

## 多摩市とマイクロプラスチック問題

東京都多摩市は、代々暮らしを営んできた人も全国から移り住んできた人も、多様な人々がお互いの価値観を尊重しながら暮らしているみどり豊かなまちです。そして市民同士のコミュニケーションツールの一つとして、政策的にさまざまなスポーツ施設が整備されてきました。その一環として、市内公園の9園にテニスコートがあり、砂入り人工芝コートが25面、クレーコートが3面設置され、多くの市民がテニスを楽しみ、健康の維持や増進に役立てています。

一方で2020年、市内を流れる乞田川と大栗川のマイクロプラスチック等の流失実態調査が実施され、その結果プラスチック破片38個中、人工芝由来のものが15個と一番多いことがわかりました。

同年、多摩市は「気候非常事態宣言」を市と市議会の共同で発出しました。この宣言は行政が市民の代表である市議会と共に行ったことでより強く、市民と共に気候変動対策を進めていく姿勢を示していること、気候変動による影響を緩和する生物多様性も盛り込まれていることが特徴となっています。

宣言の中では水とみどりの保全を積極的に推進することが謳われており、マイクロプラスチック化した人工芝の由来はわからないものの、2022年より多摩東公園と奈良原公園でスポーツ用人工芝を提供している企業と連携して実証実験等を行い、テニスコートからのマイクロプラスチック流出対策に先行して取り組むことになりました。



## テニスコートにおけるマイクロプラスチック流出対策

スポーツ用の人工芝には、サッカー競技場などに使用されているロングパイルと市のテニスコートにも使われているショートパイルの2種類があります。ロングパイルは丈が長いので経年使用により人工芝が破断し、隙間に補填されたゴムチップが雨などで場外に流出します。人の目につきやすく、多摩市がテニスコートの人工芝の対策を決めた時には環境省「マイクロプラスチック削減に向けたグッド・プラクティス集」に紹介されるなど



実証実験対策が一定数ありました。

しかしショートパイルに関しては先例がなく、しかも芝の高さぐらゐで砂を充填しており、ロングパイルとは芝の摩耗状態も異なります。そのため流出の状況がわからない中での取り組みとなりました。

実証実験の内容は多摩市のホームページに掲載されていますが、おおまかに説明すると、次の4つになります。

- ① 排水溝内にフィルター等の設置
- ② 排水溝蓋にフィルター等の設置
- ③ 防球フェンスや端部にフィルター等の設置
- ④ 集水桝へのフィルター設置

テニスコートで発生する全マイクロプラスチックを捕捉ではなく、河川への流出抑制を目指しています。そしてこのような取り組みを通し、市民と共にマイクロプラスチック問題について考え、啓発に繋げていくのが目的です。



排水溝に設置した不織布を張ったフィルター



粉状になった人工芝を捕捉した使用後のフィルター

## 砂入り人工芝が選ばれる背景

ではなぜマイクロプラスチック発生という課題を抱えながらも、砂入り人工芝コートが選ばれてきたかを考えます。テニスコートには土でできているクレーコート、コンクリートの上に樹脂等を塗布して整備するハードコート、そして砂入り人工芝の3種類に大きく分けられます。

それぞれの特徴として、クレーコートはプレー感到優れていますが土のコートなので天候に左右されやすく、ハードコートは天候に左右されにくく管理作業が減少しやすい反面、衝撃吸収性が小さく身体への負担が大きいというデメリットがあります。対して砂入り人工芝はこの衝撃吸収性を高めるべく開発され、雨が降った後でも水が抜ければすぐに使えるため、雨の多い日本の気候に合っています。

実際に利用者に希望するテニスコートのアンケートを取ったところ、クレーコートが20%、ハードコートが5%、砂入り人工芝が75%という結果になっています。また本市の2021年のテニスコート稼働状況を見ても、クレーコートの年平均稼働率が約60%であるのに対し、砂入り人工芝は約90%となっており、砂入り人工芝の方が稼働率が高いのです。

前述の実証実験に関しては、今年の10月頃に一定の結果評価を行い、来年の年度末までに流出対策についてのガイドライン作成を予定していたようですが、結果に影響を与える雨が梅雨時期に想定通りに降りませんでした。

## 名札を付けた市民ボランティアの活躍

排水溝に設置したフィルター材は定期的に交換する必要があるため、本年5月から地域テニスクラブ所属の市民がボランティアとして、月1回のフィルター交換作業に協力することになりました。改修したテニスコートからのスタートになるので、いまのところ摩耗したマイクロプラスチックは排出していないようです。

「こどもや孫の代が生きる環境のために必要だから」と、テニスを楽しむ当事者が人工芝のマイクロプラスチック問題に取り組む姿を見ると、マイクロプラスチックの課題解消は困難ですが、解決に向けて確実に動き出したのだと感じました。



テニスコートボランティア作業員身分証明書